

# 東日本大震災災害対策NEWS

◇東日本の仲間とともにがんばろう◇

〒336-8512 埼玉県さいたま市南区鹿手袋 6-18-12 Tel.048-863-6211 Fax048-837-1989

## 鈴木委員長、茨城県連へ被災見舞いに

三月二十三日、鈴木委員長、伊藤書記次長が東日本大震災で被害を受けた茨城県連へお見舞いに行きました。県連へ向かう途中、猿島土建の中村書記長とおちあい同行。道中、家屋の屋根にかけられているブルーシートが多さが目に入り、常磐道の下をくぐる出口部分の道路のひび割れも目につきます。あらためて震災被害の広がりを実感しました。県連では古沢県連会長、小野事務局長、四人の事務局の皆さんが迎えてくれました。

古沢会長は地震当時、脚立に乗って仕事中で地震が起こった時に脚立から飛び降りネンザしてしまいました。小野事務局長も自宅が損傷を受けてしまったそうです。

鈴木委員長から古沢会長に埼玉土建から見舞金を手渡した後、茨城の間の被災状況を聞くと、人的被害はなかったとのこと。中村書記長から「建設組合としてボランティア活動を県連で取り組めないか。また、

被災した住民への救済活動に取り組むのであれば、猿島土建も埼玉土建ともども協力する」と要請し、鈴木委員長、伊藤書記次長からも同様に要請を行いました。

【猿島土建】地震翌日から仲間訪問をしながら、状況をつかみ、連日のように、住民から住宅被害特に屋根修理、倒壊物の除去などの応急処置など奮闘を続けています。（写真は、全建総連が茨城県連へお見舞いに行つたときの茨城の状況）



古沢会長（左）、鈴木委員長（右）



北茨城市の住宅被害



港近くでフェンスに乗り上げる車



津波で打ち上げられた漁船・大洗丸

比企西部支部の常任執行委員（賃労対部長）青田実さん（五九歳、電気設計）は、今回の大震災で甚大な被害を受けた福島県南相馬市出身。震災翌日からなんとか連絡を取り、すぐに比企郡嵐山町の自分の住まいへの受け入れを開始しました。親兄弟親戚など、総勢十八人になりましたが、「なんとかしたい」「心をすべての受け入れを決意。自宅だけでは対応しきれないので嵐

### 仲間が被災者の受け入れで自治体動かす

比企西部支部 常任執行委員 青田実さん

山町に相談。町も区長さんを通じて、町営や民間のアパートなど、提供できるところを探してくれ、現在はなんとか落ち着いている状況です。組合としても町に申し入れを行い、迅速な対応をお願いしました。「現地の実態は想像しているよりひどい。ライフラインが止まると何もできない。風評被害も深刻だ」と語ります。

（文責 田口書記長）